

氏 名：村上 宏達
学校種別：高等学校
採用年度：平成 29 年度
障がいの種別：内部障害

○教員の志望動機

私は元々他人に教えることが好きで、子どもの頃から教師になりたいと思い、学業に励んでいました。

しかし、大学1年のときに腎臓の病気を患い、長期に渡る休学と闘病生活を強いられました。その後、治療が上手くいき、何とか日常生活に戻ることができましたが、体調面での不安もあり、一度教師になる夢を諦めてしまいました。

しかし、教育実習を通じて得た、自分の言葉によって生徒が成長していく楽しさを忘れることができませんでした。

また、闘病生活を経験した私にしかできない何かがあるだろうと考え、教師になる決意を固めました。

○採用後の印象

実際の学校現場では基本的に配慮はされますが遠慮はされません。私は治療の関係で月1回程度の通院が必要なのですが、問題無く病気休暇を取ることができています。

だからといって、仕事内容や量に影響があるかというと、全く有りません。健常者と同じ分だけの仕事を任せられます。できないことに関して配慮はされますが、それ以外では全く遠慮がありません。障がいの有無に関係なく平等です。

○仕事のやりがい

仕事のやりがいとなるいろいろなありますが、やはり一番感じていることは自分の障がいを有効活用できることです。

最近の学校をとりまく問題は多様化しており、生徒も様々な問題を抱えています。そのため学校現場では様々なアプローチを行う必要が有ります。その中には障がいがある人間にしかできない、分からないことが必ずあります。そのことを常に意識し、時には生徒に伝えながら、日々校務に励んでいます。

また、私は理科教諭なので、自身の身体のことを通して、生命の大切さや奥深さなどを教えています。

○教員を目指す人へのメッセージ・エール

多様化する教育現場において、障がいというものは立派な武器になります。どうか皆さんも障がいがあるからといって躊躇せず、自信を持って夢に向かって突き進んでください。